



3月12日、「山村力コンクール」表彰式で林野庁長官賞を受賞する中崎和久・葛巻町森林組合長

森林組合は
こんな活動しています

**付加価値高める
供給システム構築**

森林管理協議会（FSC）の加工流通（COC）認証を取得し、このロゴを表示して仕入れから加工・販売まで効率的で付加価値を高めるための供給システムを構築しました。

**町内産カラマツ
のブランド化**

町内で生産される40年生カラマツ材に「岩手くずまき高原カラマツ」として商標登録したシールをはって出荷し、環境適合品の証として活用。有利な販売につなげています。

**企業の森で
森林保全管理協定**

「企業の森」を設置し、企業と長期の森林保全管理協定を締結。森林の管理を行い、森林を舞台に植樹祭や育樹祭を開催し、都市と農山村の交流活動を積極的に行っています。

**新ビジネス創出の
取り組み**



森の達人などが森林ボランティア活動や里山の再生、木炭を活用した有機農産物の生産や試験など「森の新ビジネス」を創出するための取り組みを行っています。

葛巻町森林組合

山村を元気にする優れた活動を選ぶ「山村力（やまぢから）」コンクール（財団法人・都市農山漁村交流活性化機構主催）で、葛巻町森林組合（中崎和久組合長）が最高賞の林野庁長官賞を受賞しました。葛巻町畜産開発公社の「日本農業賞大賞」に続く日本で、町民の自信につながっています。

かつては木炭生産の主産地であった本町。森林の持つ国土保全、水源かん養、地球温暖化防止等の多面的な機能の発揮に対する意識が高まっている一方、高齢化による林業従事者の減少と安価な外材の輸入による木材価格の低迷などから森林の手入れが行われず、森林の機能が十分発揮されない状況になってきました。

このような中、同組合は適切な森林整備事業と森林の資源循環利用を推進するとともに「薪・巻・牧トリプル薪フェスタ」を開催して都市との交流の活発化を推進。また、豊かな森林資源を活用し、町内産カラマツ材の商標登録を行いブランド化を進めるなど森林の多面的な機能の維持・増進と付加価値を高める事業が評価されたものです。



企業の森に設けられた「森林の預金箱」にナラの苗木を植える江刈小児童ら

山村力
で
林野庁長官賞



久しぶりの再会で、「ふるさと葛巻」や思い出話で盛り上がる懇親会と、参加最年少の乙戸裕太さん

**懐かしい顔たくさん
葛巻ふるさと会総会**

町出身の首都圏在住者で構成される葛巻ふるさと会（佐々木由三会長、会員256人）の総会が3月2日、東京都YMCAアジア青少年センターで開催されました。参加者は会員64人と町関係者10人。総会に続いて、お待ちかねの会員懇親会。久しぶりの再会や懐かしい話で盛り上がり、会場は、笑顔の絶えない和やかな雰囲気となりました。参加者で最年少の乙戸裕太さん（22歳・垂柳出身、小岩金網(株)勤務）からは、「葛巻はとても元気。もっともっとがんばってほしい」と、ふるさとへ期待する声が寄せられました。

**葛高生魂を胸に秘め
40人が学舎を築立つ**

町内の卒業式のトップを切って3月1日、葛巻高校（伊藤正博校長）では、40人が思い出多い学舎を後にしました。伊藤校長は「葛高生魂で、真っすぐ進んでください」と激励。在校生の眞下博之さん（2年）が、「葛高の伝統を守り、新たな歴史を積み上げます」と力強く送辞を述べると、卒業生代表の高村雄さんは、「葛高は存続の危機ですが、中高一貫教育で魅力ある学校づくりと地元の中学生に葛高の良さを伝えてほしい」と、さらなる発展を願いました。町内では葛巻高のほか小学校65人、中学校75人が母校を巣立ちました。



ひとりひとりに卒業証書が手渡された葛巻高卒業式



葛巻産の食材を使用した「くずまき高原地産地消料理コンクール」は2月29日、書類審査を突破した8人が町内外から参加して腕前を競いました。牛肉、牛乳、やまぶどう、雑穀の一つ以上を使用することが条件。完成した料理は、あっと驚く趣向もこらされ、町の活性化に一役。 **最優秀賞作品**

これぞ葛巻料理だね
地産地消コンクール



くずまきジュニアプラス（服部隆行世話人・会員8人）の発表会は2月29日、町の総合センターホールで開かれました。音楽が好きで、会結成に自分たちが立ち上がって約3年。全員が葛巻小の6年生で、卒業式を間近にした最後の発表会で、8人が心を合わせたメロディーを披露し、会場から盛んな拍手が送られました。

私たち小さな音楽家
心を合わせて発表会